

2019年11月2日 障害児・障害者交流会

時間：11：00～15：00

場所：キャラジ市マーラット イベント会場

主催：NPOイランの障害者を支援するミントの会

協力団体：NGOナセリ・NGOアフターブ

助成団体：公益財団法人 日本国際協力財団

参加者：NGOナセリ：76名（障害者と家族）

NGOアフターブ：65名（障害児と家族）

地域関係者5名（歌手・女優・地域有力者）

ミントの会7名<バシャイ（代表）・ファテメ（スタッフ）・大澤（NS）

秋山（OT）藤縄（PT）・辻村（リハビリ工学士）・アミール（現地）>

内容：①ユニバーサルスポーツボッチャ：障害児・者が一緒にボッチャを体験

車いす利用者や知的障害児たちが、会場のフロアでボールを投げて競った。

②イラニアンダンスと歌：リズムに合わせたイランの踊りに参加し、プロの歌手の歌のプレゼントに、普段外出が少なく娯楽が少ない中ダンスや歌で家族と一緒に楽しめた。

③圧測定機による座面圧測定：車いす利用者約20名に床ずれ予防対策を話した。車椅子座面の圧測定を初めて体験して、クッションの状態や姿勢・動き方を考え褥瘡などの合併症予防の情報が得られた。

④手品：藤縄（PT）氏が日本の手品を披露しエンターテイメントを体験した。

⑤折り紙交流とコミュニケーション：日本から持参した折り紙を渡し日本文化交流の機会となった。また、スマホの翻訳アプリを利用して、コミュニケーション方法を知ることができ日本とイランの国際交流の機会となった。





成果：①NGOナセリとNGOアフターブの初めての交流会は大きな意味があった。NGOナセリにとってデイサービス運営のノウハウを知る機会ができた。またNGOアフターブにとって子供たちが大人になってから利用する障害当事者の活動を知る機会となった。

②普段楽しみの機会が少ない障害児・者にとって、家族と一緒に楽しむ貴重な時間ができ、外出の機会を作ることができた。年齢や障害種別を越え、お互いを思いやる機会となった。

③障害児・者の社会参加を地域の関係者や歌手・女優さんが参加し協力する基盤づくりになった。広報活動を行い、ボランティアや寄付活動につながる活動ができた。